

平成31年1月17日

「ポリファーマシーの課題」水谷隆史先生 グループワークまとめ

Q1 ケアマネジャーなどの多職種（主に介護職）がポリファーマシーに関与するのはどのような時か

Q2 関与する時はどのようなことを知っておくべきか

Q3 多職種（主に医療職）には何を知らせたほうが良いか

Aグループ	Fグループ
<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none">・残薬がある時（特に一人暮らしの高齢者）・通院が不定期・MCI・自己調整してしまう <p>Q2</p> <ul style="list-style-type: none">・かかりつけ医療機関・薬剤情報 <p>Q3</p> <ul style="list-style-type: none">・通院状況・損体生活状況・個人情報に留意し伝えられる範囲で	<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none">・処方された薬剤が効いているか疑問・HHや訪看から服用情報があり心配なとき・クリニックと病院での処方に違いがあるとき <p>Q2</p> <ul style="list-style-type: none">・認知機能の状態 <p>Q3</p> <ul style="list-style-type: none">・精神面、認知症状の変化・担当者会議の開催予定や結果
Bグループ	Eグループ
<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none">・複数の医療機関受診・多剤服用と複数医療機関受診→調剤薬局の一元化・家族が療養者に無関心→内服状況が不明 <p>Q2</p> <ul style="list-style-type: none">・誰が薬の管理をしているか・薬情（HHは知らずに内服支援することがある）・現病歴や既往歴 <p>Q3</p> <ul style="list-style-type: none">・日常の生活状況・ADL・服薬状況・受診状況・独居の方は難しいが、現在までの生活状況	<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none">・一包化の薬は内容が分かりづらい・家族管理の場合は内服状況を把握しづらい・薬情が介護職には伝わらない <p>Q2</p> <ul style="list-style-type: none">・病名・内服が能力的に可能か・介護者の有無・覚醒状況 <p>Q3</p> <ul style="list-style-type: none">・服薬状況（介助者の有無）・下剤服用後の排便状況など・受診のタイミング
Cグループ	Dグループ
<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none">・残薬が多い・訪問時に確認ができない・自分で選択して好きに服用している・内服のタイミングが合っていない・副作用が疑われる <p>Q2</p> <ul style="list-style-type: none">・服薬状況・服薬時間ごとの状況 <p>Q3</p> <ul style="list-style-type: none">・認知機能・生活状況・受診状況	<p>Q1</p> <ul style="list-style-type: none">・HHから体調変化の報告（胃痛・ふらつき）・複数の薬局から調剤を受けている・自己判断で服用を中止する・残薬がある <p>Q2</p> <ul style="list-style-type: none">・薬情や薬手帳を薬局に持参し相談 <p>Q3</p> <ul style="list-style-type: none">・医師には副作用訴えをしない→介入の必要・独居の場合、薬を受け取る人に状況を教えてもらう

会場全体（総合討論）のまとめ

Q1 介護職は、利用者のポリファーマシーと、どのような時に関与するのでしょうか？

- ・ おおむね、独居、認知症、自己調整する人に多い。
- ・ ヘルパーから薬について報告を受けてわかるときがある。
- ・ 訪問看護からふらつきなどの症状から発見されるときがある。
- ・ 薬剤師が主治医に報告、主治医に言えない利用者にヘルパーが同伴して報告するようにしている。

Q2 介護職が関与するときは、どのようなことを知っておくべきであろうか？

- ・ 服薬の全体像（医療機関、すべての服薬の確認）、お薬手帳の確認（処方薬局も確認）。
- ・ アドヒアランス（きちんと用法通りに内服できているか）
- ・ 自分で管理できない人については、介護職がかかりつけ薬局に情報提供をして連携するとよいこと。
- ・ 付き添いで報告することが有用、認知症についても理解しておく方が有用と感じる。
- ・ 実際にどの作用の薬を飲んでいるのかがわからないと、介護職としては対応しにくいとの意見があり、医療職から薬の内容についての情報提供が連携に重要と考えられた。

Q3 多職種（特に医療）には何を知らせた方が良いだろうか？

- ・ お薬手帳、薬の情報、ふらつきなどの症状、あざなどの所見、生活状況
- ・ ADL、認知症の有無、生活状況について
- ・ 服薬状況、飲みづらい薬はなぜ飲まないのか、副作用、便秘ふらつきの所見
- ・ 本人が医療職に訴えを直接言わない。
- ・ 誰が何時に飲ませているのか。下剤や排便状況についての情報。
- ・ 担当者会議に医療職が出席して欲しい。